

## 1 梨の肥大状況

梨の果実肥大は、7月11日の無作為調査の結果では、「幸水」の横径が54.3mmと前年、平年と比べ大きくなっています(前年値47.4mm 平年値49.7mm)。

## 2 黒星病の発生状況

### ①果実、葉等の発病状況

7月16日の発病状況調査結果では、いずれの品種も発生は少なく、果実への発病は、本年6月中旬調査からほとんど増加しておらず、過去3年間の同時期と比較しても少ない状況です。

表 R元年 黒星病発生状況(調査日:7月16日)

品種名	調査園地数	発病 果そう率 (%)	部位別発病率						
			果実 (%)	果梗 (%)	果そう葉		新梢葉		
					葉 (%)	葉柄 (%)	葉 (%)	葉柄 (%)	枝 (%)
幸水	68	2.6	0.7	0.1	0.3	1.4	0.1	0.1	0.0
豊水	27	2.9	0.2	0.1	0.3	1.9	0.2	0.3	0.0
新高	14	0.6	0.0	0.0	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0
あきづき	4	2.0	0.5	0.5	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計・平均	113	2.4	0.5	0.1	0.3	1.3	0.1	0.1	0.0

【参考：昨年同時期の発生状況】

表 H30年 黒星病発生状況(調査日:7月11日)

品種名	調査園地数	発病 果そう率 (%)	部位別発病率						
			果実 (%)	果梗 (%)	果そう葉		新梢葉		
					葉 (%)	葉柄 (%)	葉 (%)	葉柄 (%)	枝 (%)
幸水	68	14.9	1.4	0.6	2.7	5.7	2.8	3.6	0.2
豊水	27	17.3	1.6	0.5	3.0	8.1	2.4	3.9	0.1
新高	14	4.4	0.1	0.1	1.0	3.2	0.0	0.2	0.0
あきづき	4	11.5	1.0	0.0	3.5	5.0	2.0	0.5	0.0
合計・平均	113	14.1	1.2	0.5	2.6	5.9	2.3	3.1	0.2

### ②気象データによる感染危険度・発病危険度(千葉梨防除ナビより)

4月10日～7月15日の間で、感染危険度は12回と少なく、危険度指数も2.2と低い状況でした。

黒星病の発生は、過去3年間の同時期と比較しても少ない状況ですが、現在、「幸水」の果実に感染しやすい時期であること等から、引き続き発生防止対策の実施が極めて肝要です。

<黒星病感染危険度の発生回数および指数>

	4月	5月	6月	7月(15日まで)	計
R元	1 (1.5)	2 (1.6)	7 (2.6)	2 (1.7)	12 (2.2)
H30年	7 (4.6)	10 (5.7)	4 (2.8)	4 (6.7)	26 (5.1)
H29年	3 (1.9)	9 (2.4)	15 (3.4)	8 (3.7)	35 (3.1)
H28年	4 (3.0)	3 (5.0)	8 (2.1)	2 (1.5)	17 (2.8)

※ ( ) 数値は、感染危険度指数(0～9までの10段階評価)

#### ☆重要☆

- 「幸水」の収穫期間中は農薬防除が困難となります。
- 農薬防除が不可能でも収穫期間中の黒星病の発生を抑えるためには、収穫直前まで、発生した果実、葉の病斑を除去し、感染源の密度を低下させることが極めて重要です。

### 3 これからの防除について

☆秋型病斑葉の発生抑制のため、「幸水」収穫終了後と「あきづき」収穫終了後の防除を実施して下さい。

回数	散布月日	薬剤名と濃度	収穫基準 (収穫前日数)	散布量	主な対象病害虫	防除 実施日
15	7月24日～26日 (満開95～97日)	ネクスターフロアブル 1,500倍 (SDHI剤) オーソサイド水和剤 80 1,000倍	前日 3日	300 ㍉	黒星病、輪紋病、 黒斑病、うどんこ病	
<p>※カメムシ類の発生が見られる園地では「バリアード顆粒水和剤」(2,000倍 収穫前日まで)を15回目の防除に混用散布して下さい(ネクスター、オーソサイドと混用可能な剤は「バリアード顆粒水和剤」のみです)。</p>						
16	8月3日～5日	オーソサイド水和剤 80 1,000倍 アグロスリン水和剤 2,000倍	3日 前日	300 ㍉	黒星病、輪紋病 シンクイムシ類 カメムシ類	
特散	8月8日～9日 防除前に草刈り!	マイトコーネフロアブル 1,500倍	前日	400 ㍉	ハダニ類	
17	9月上中旬 (「幸水」収穫終了後)	ナリアWDG 2,000倍 ダントツ水溶剤 4,000倍	前日 前日	300 ㍉	黒星病 シンクイムシ類 カメムシ類	
<p>※ナリアWDGは、全品種が防除対象となります。 ※ダントツ水溶剤は、「幸水」以外の品種(これから収穫される品種)が防除対象となります。</p>						
18	10月上旬 (「あきづき」 収穫終了後)	オーソサイド水和剤80 1,000倍	3日	300 ㍉	黒星病	
<p>※オーソサイド水和剤80は、全品種が防除対象となります。</p>						

#### 【注意事項】

- (1) これからの防除は、収穫期付近あるいは収穫期間中となるので農薬の使用基準(収穫前日数)に十分注意して下さい。  
「収穫前日」の場合、散布後24時間以上あけて収穫し、周囲の収穫園にも気を配りましょう(収穫中の梨にかかった場合は、収穫は散布後24時間以降に実施して下さい)。
- (2) マイトコーネフロアブル散布後、ハダニ類の発生が見られた場合は、コロマイト水和剤(2,000倍、収穫前日まで、400㍉/10a)を散布して下さい。
- (3) **ハマキムシ類およびシンクイムシ類対策として、7月末頃にコンフューザーNを50本/10a追加設置下さい。**
- (4) 徒長枝などへの黒星病(秋型病斑葉)の発生を抑制するため、「幸水」収穫終了後と、「あきづき」収穫終了後の防除(ナリアWDG及びオーソサイド水和剤)を実施して下さい。  
(※防除日は、「幸水」「あきづき」の収穫状況を見極めて決定し、9月初旬および10月初旬にお知らせします)

### 4 補正摘果基準 ☆着果過多の園では速やかに実施しましょう! ☆

◆「幸水」の目安(満開日が4月20日の場合) ◆「豊水」の目安(満開日が4月16日の場合)

大きさ(横径)	7月22日	7月25日	大きさ(横径)	7月24日	7月27日	7月30日	8月2日
44玉基準	53.0 mm	55.7 mm	40玉基準	51.3 mm	53.8 mm	56.4 mm	58.9 mm

### 5 除草剤の使用基準について

除草剤の使用に当たっては、下記の使用基準を遵守して下さい。

- (1) 収穫前日まで使用可能: バスタ液剤(年3回以内)、プリグロックスL(年5回以内)
- (2) 収穫7日前まで使用可能: ラウンドアップマックスロード、  
サンフーロン液剤、草枯らしMIC(合わせて年3回以内)